

J-REITは環境配慮への取り組みに積極的。投資家からは環境不動産に対して前向きな評価もみられる

J-REITは環境配慮への取り組みに積極的

J-REITは、持続的な社会の実現という観点から環境に配慮した不動産への意識が高いとみられ、保有物件の省エネ化やGHG(温室効果ガス)削減などに取り組んでいます。投資法人の中には、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に基づき、GHG削減目標やその実績の開示を行っているものもあります。

ESG投資に関心を持つ投資家層の拡大が見込まれる中、環境認証を取得する動きも続いています。不動産の環境認証には、不動産会社・ファンド等のESG配慮を測る年次評価であるGRESBがあります。個別不動産の環境性能を評価するものとして、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)などがあります。「GRESBリアルエステイト」評価への国内参加者数は増加の一途にあり、2023年は135の企業・ファンドが参加(2022年:122)しました。なお、J-REITの参加は57社でした。全J-REITの総保有不動産に占める環境不動産の割合は7割程度と、環境への取り組みが進んでいます。

環境不動産の実現には、コスト面でネガティブな印象が考えられますが、投資家の環境不動産に対する前向きな受け止めもみられます。日本不動産研究所が実施した不動産投資家調査によれば、「ESG投資に適した不動産」と「そうでない不動産」の賃料収入について、10年後をみると、前者が「1～5%程度高い」との回答が61.1%と最も高くなっています。多くの投資家が、将来的には、環境配慮への取り組みが不動産価値の向上につながると捉えていることがうかがわれます。

J-REIT市場では、金融機関(除く証券会社)や、外国法人等の保有比率が相応に高く、その存在感は大きいといえます。ESGを重視する投資家からJ-REITのESGへの取り組みが評価されれば、資金流入が期待され、今後のJ-REIT市場の押し上げ要因として動向が注目されます。

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

【全J-REITの総保有不動産に占める環境不動産の割合】

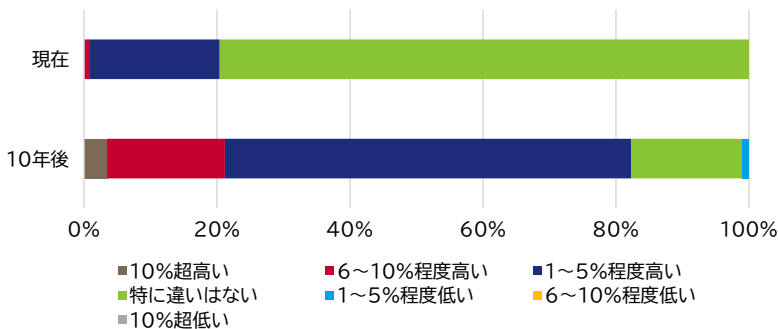
	2021年	2022年	2023年
環境不動産の割合	62.6%	66.9%	69.1%
前年からの増減	-	4.3%	2.2%

※延床面積比

※環境不動産は、GRESB評価における環境ポイント付与対象不動産(CASBEE、DBJ Green Building認証、BELS、LEED等)

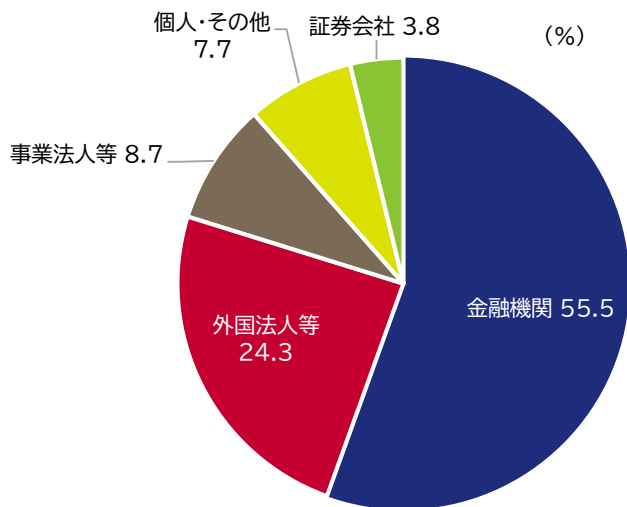
出所:不動産証券化協会のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

【不動産投資家調査:「ESG投資に適した不動産」と「そうでない不動産」の賃料収入の違いについて】



出所:日本不動産研究所「不動産投資家調査(2024年4月)」をもとにアセットマネジメントOne作成

【J-REIT 投資部門別保有比率】

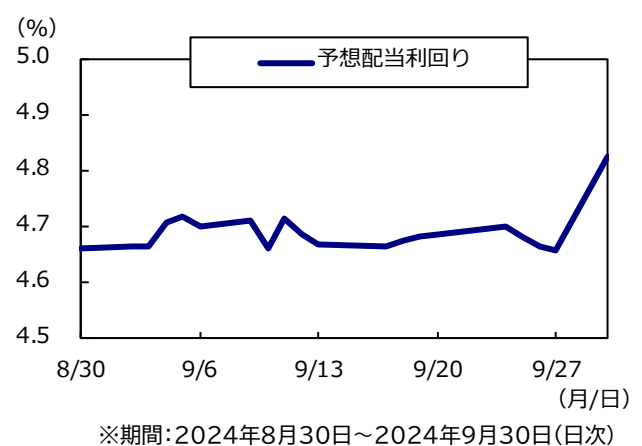
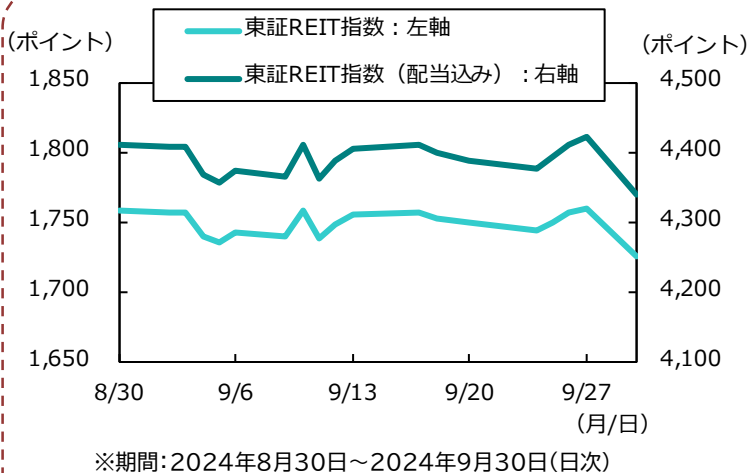
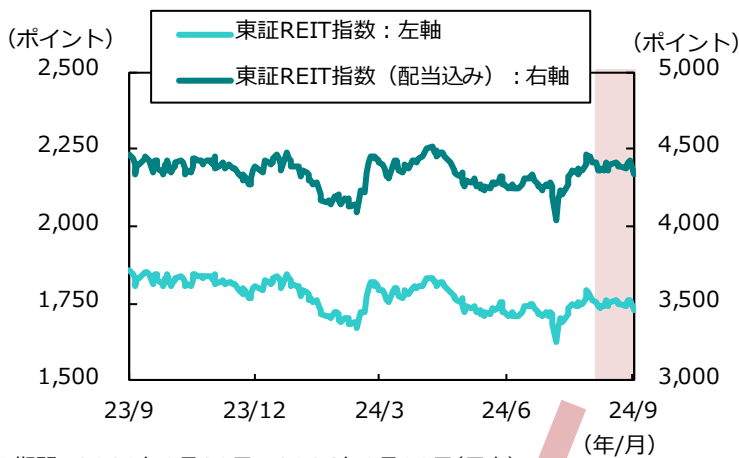


※2024年2月時点

出所:日本取引所グループのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

J-REIT市場について

[東証REIT指数およびJ-REITの予想配当利回りの推移]



	2024年9月末	2024年8月末	月次騰落率
東証REIT指数	1,726.24	1,758.05	▲1.8%
東証REIT指数(配当込み)	4,339.32	4,411.38	▲1.6%
東証REIT指数配当利回り	4.83%	4.66%	-

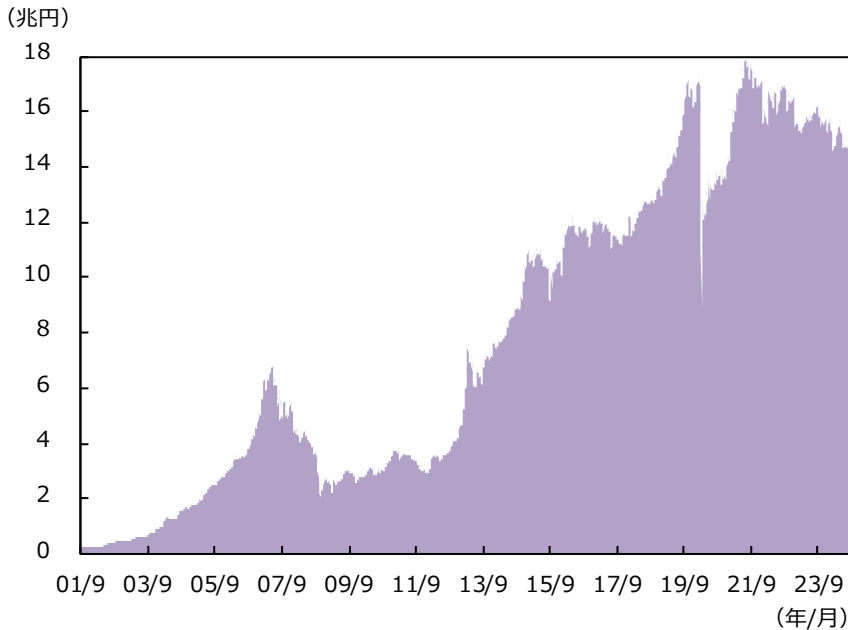
先月の 投資環境

9月のJ-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は下落しました。月間を通じてJ-REITはほぼ横ばい圏で推移しました。日銀は政策金利を据え置き、植田総裁が利上げを急がない姿勢を示しましたが、相場の反応は限定的でした。月末には自民党総裁選での石破氏の勝利を受けて、今後の日銀の利上げペース加速に対する懸念が強まったことから、下落しました。用途別では、オフィスや商業が相対的に値持ちが良い展開となりました。

今後の 見通し

日銀の追加利上げ観測が重石となるものの、相対的に高い分配金利回りなどを背景とした需要から、下値は限定的と見込みます。日銀は9月の会合で政策金利を据え置き、利上げを急がず、米経済動向や市場の動向を注視する姿勢を示しました。もっとも、日銀は引き続き追加利上げを検討しているとみられ、留意が必要です。なお、8月の都心5区のオフィス空室率は、3年7カ月ぶりに4%台へと低下しました。平均賃料は7カ月連続で前月から上昇し、オフィス需要の復調がうかがえます。

[J-REITの時価総額推移]



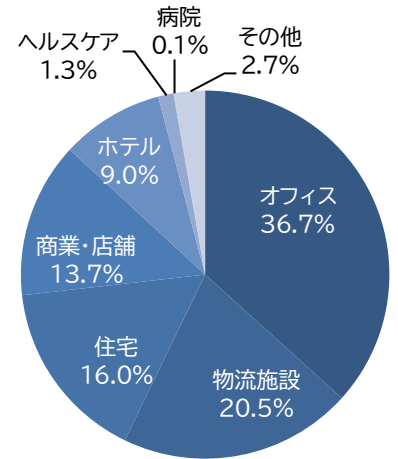
※期間：2001年9月10日～2024年9月30日(日次)

[J-REITの市場規模]

時価総額	14.9兆円
銘柄数	58銘柄

※2024年9月末時点

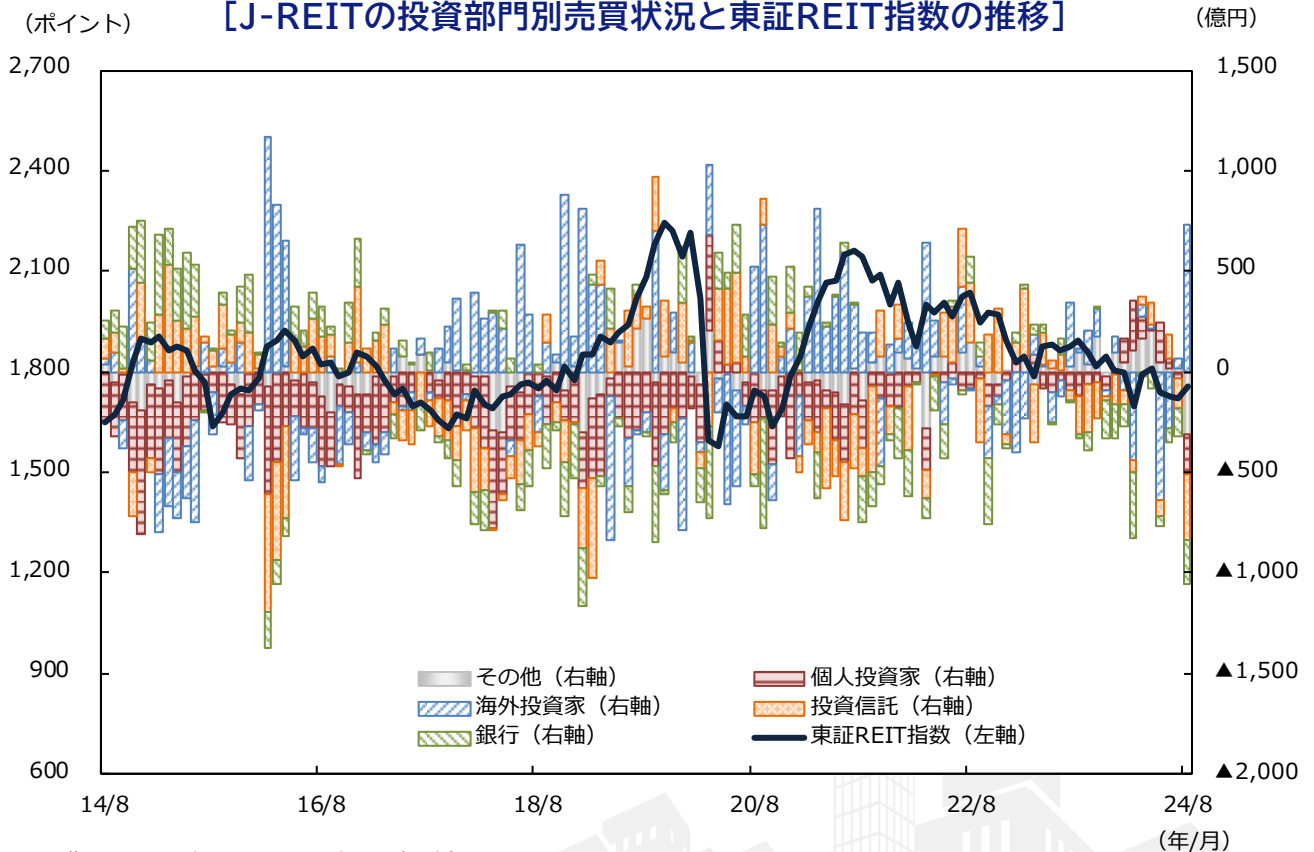
[不動産タイプ別構成比率]



※2024年7月末時点

※小数第2位を四捨五入しているため、上記グラフの合計値が100%とならない場合があります。

[J-REITの投資部門別売買状況と東証REIT指数の推移]



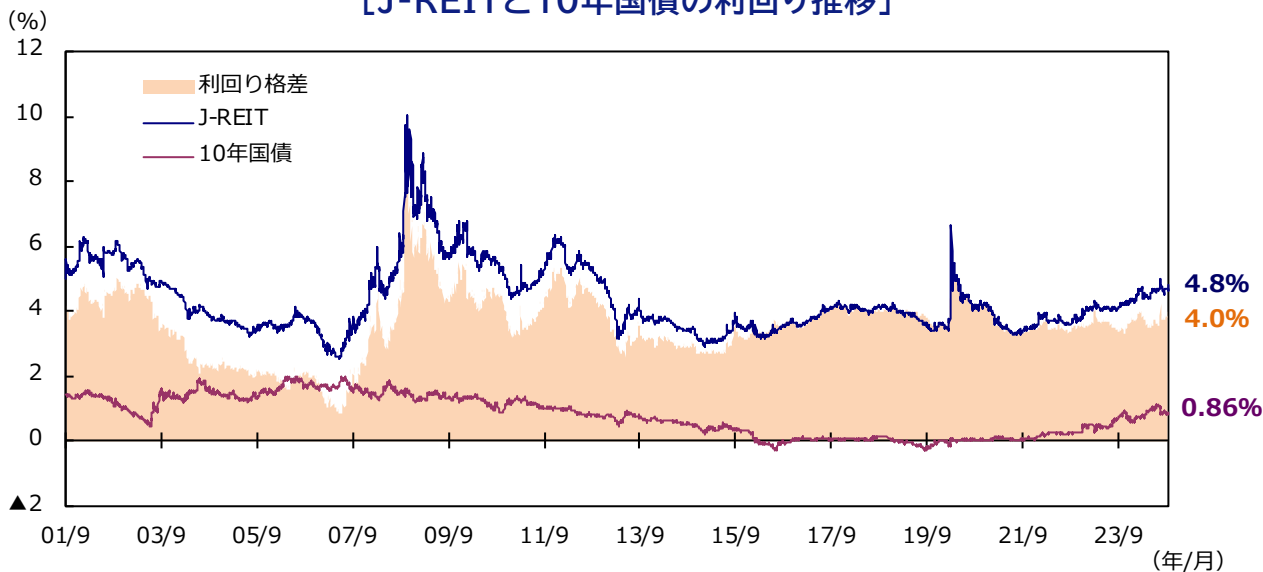
※期間：2014年8月～2024年8月(月次)

出所：ブルームバーグ、一般社団法人投資信託協会および東京証券取引所のデータをもとにアセットマネジメントOne作成
 ※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

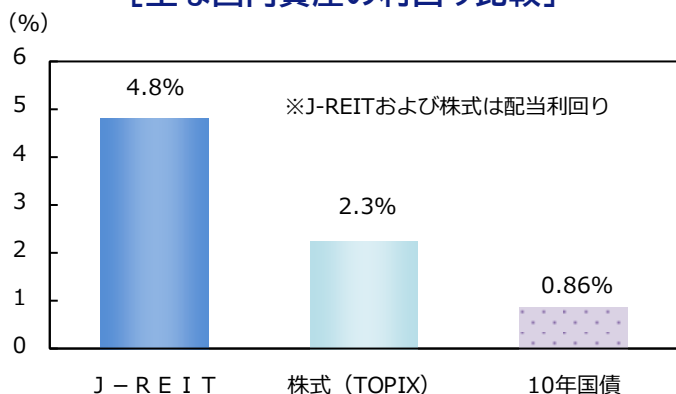
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

J-REIT市場について

[J-REITと10年国債の利回り推移]

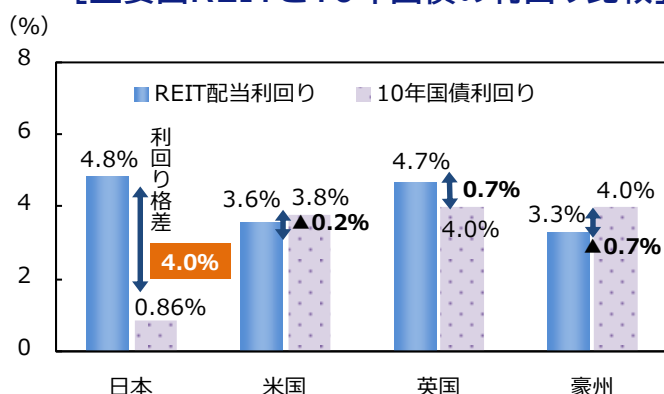


[主な国内資産の利回り比較]



※2024年9月末時点

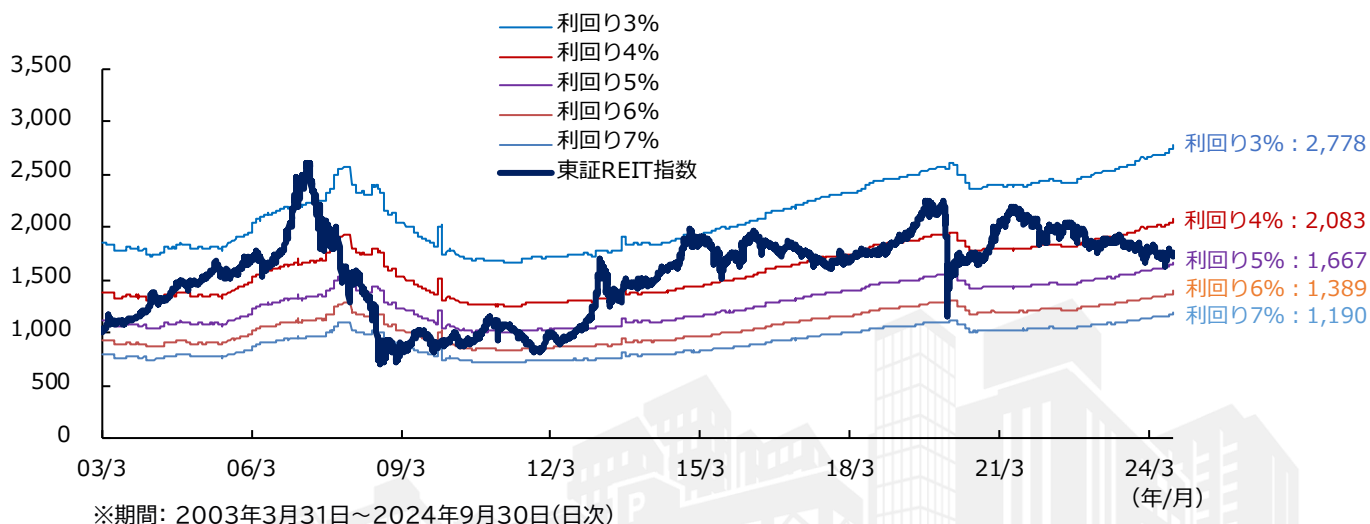
[主要国REITと10年国債の利回り比較]



※2024年9月末時点

※主要国REITの利回りで用いた指数は次のとおり。日本:東証REIT指数、米国:FTSE NAREIT All Equity REITs指数、英国:FTSE EPRA/NAREIT UK指数、豪州:S&P/ASX200REIT指数。利回りは、指数構成銘柄の変更などにより、大きく変動することがあります。
 ※利回り格差は、小数第2位を四捨五入しているため、REIT配当利回りから10年国債利回りを控除した値と一致しない場合があります。

[東証REIT指数の推移(利回り)]



出所：ブルームバーグ、各投資法人のデータをもとにアセットマネジメントOne作成
 ※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

J-REIT市場について

[J-REIT 時価総額上位10銘柄]

順位	銘柄名	主なスポンサー	主な運用対象	騰落率				時価総額	予想配当利回り
				1か月	3か月	6か月	1年		
1	日本ビルファンド投資法人	三井不動産	オフィス	0.5%	17.1%	10.2%	8.7%	11,210 億円	3.64%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	三菱地所	オフィス	▲2.7%	12.4%	6.1%	▲2.1%	8,125 億円	4.24%
3	日本プロロジスリート投資法人	プロロジス	物流施設	▲4.4%	▲1.9%	▲8.2%	▲11.3%	6,989 億円	4.15%
4	日本都市ファンド投資法人	KKRグループ	総合	4.5%	6.7%	2.0%	▲0.4%	6,741 億円	5.76%
5	野村不動産マスターファンド投資法人	野村不動産ホールディングス	総合	▲3.2%	0.1%	▲4.9%	▲14.6%	6,670 億円	4.73%
6	GLP投資法人	GLPグループ	物流施設	▲0.7%	1.3%	5.9%	▲0.4%	6,499 億円	4.75%
7	KDX不動産投資法人	ケネディクス	総合	▲6.4%	▲3.4%	▲4.7%	▲12.6%	6,168 億円	5.19%
8	大和ハウスリート投資法人	大和ハウス工業	総合	▲0.2%	▲4.2%	▲9.0%	▲10.7%	5,436 億円	5.35%
9	アドバンス・レジデンス投資法人	伊藤忠グループ	住宅	1.7%	2.7%	0.7%	▲0.7%	4,822 億円	3.52%
10	インヴィンシブル投資法人	フォートレス・インベストメント・グループ	総合	▲3.9%	▲4.8%	▲8.7%	0.5%	4,748 億円	5.79%

※2024年9月末時点

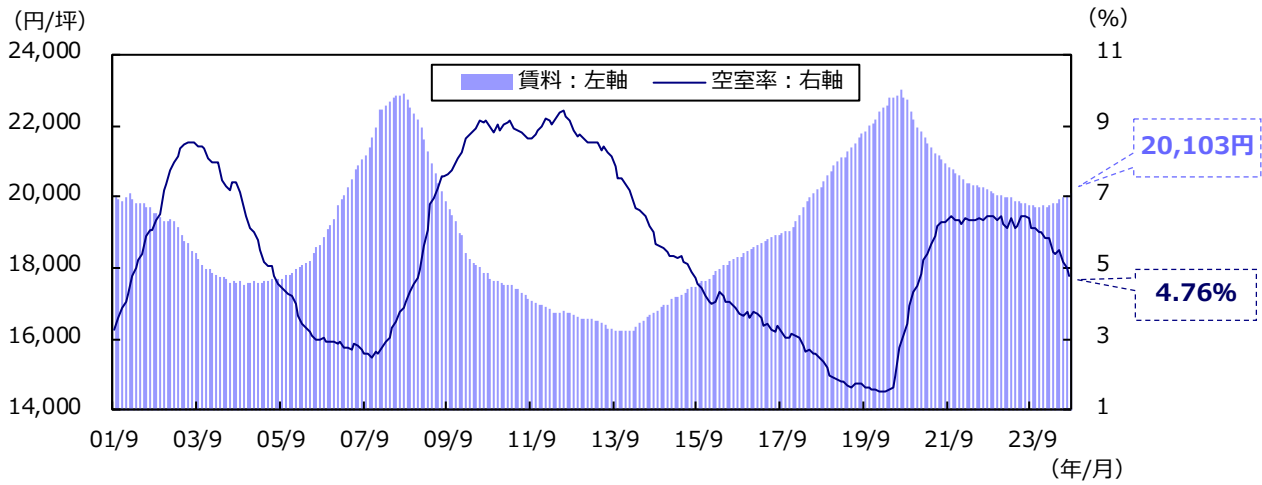
出所:ブルームバーグおよび各投資法人のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は、将来におけるJ-REIT市場の動向等を示唆・保証するものではありません。また、掲載した投資法人の発行する投資証券および投資法人債への投資を推奨するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

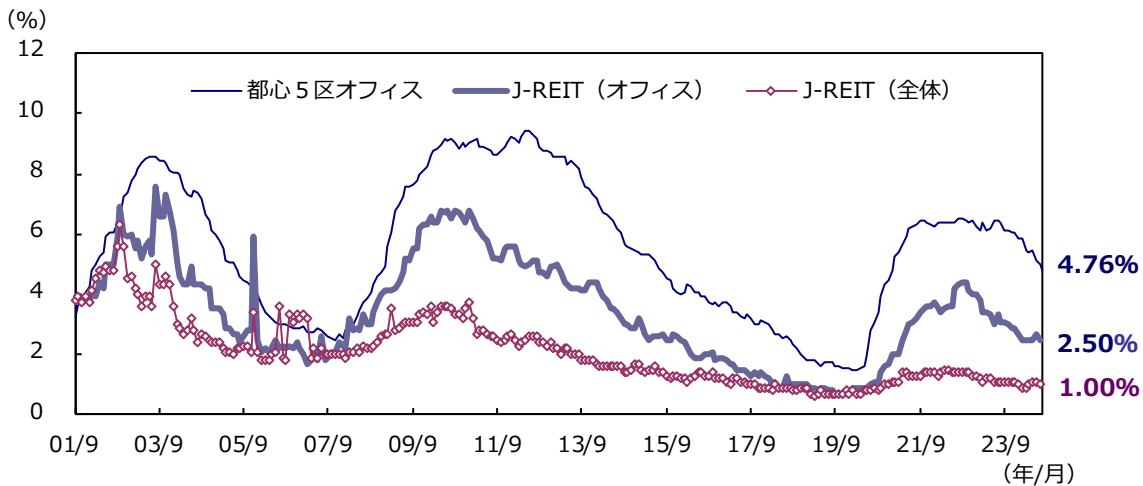
不動産市場について

【都心5区(千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区)オフィスビルの賃料・空室率の推移】



※期間: 2001年9月～2024年8月(月次)

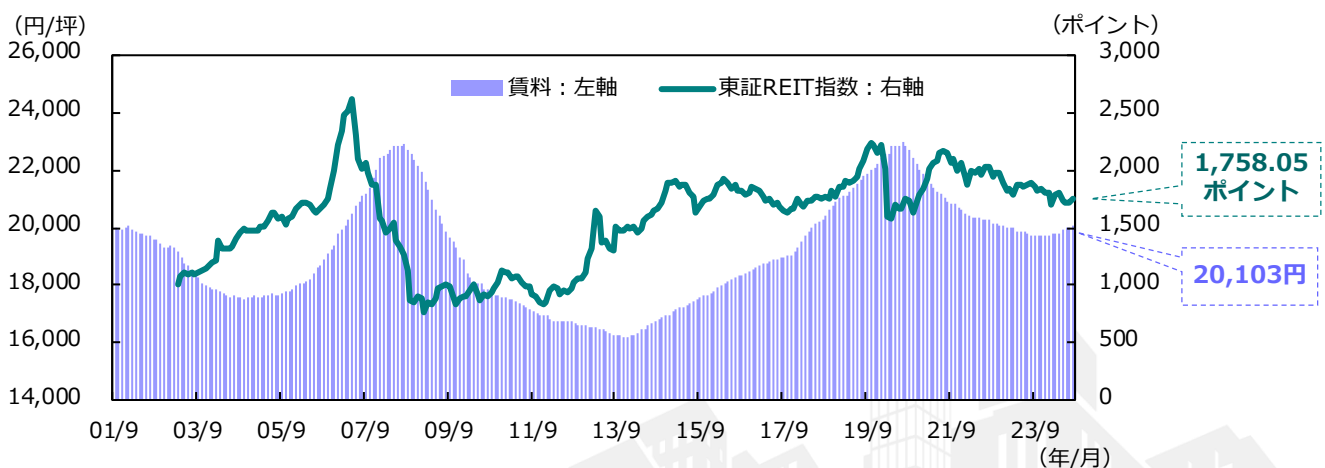
【都心5区オフィスとJ-REIT(オフィス)・J-REITの空室率の推移】



※期間: 2001年9月～2024年8月(月次)

※J-REIT(全体)およびJ-REIT(オフィス)の空室率は、2024年7月までのデータを表示。

【東証REIT指数と都心5区オフィスビルの賃料の推移】



※期間: 2001年9月～2024年8月(月次)

※東証REIT指数は、基準日である2003年3月31日のデータより表示。

出所: ブルームバーグ、三鬼商事、一般社団法人投資信託協会のデータをもとにアセットマネジメントOne作成
※上記グラフは、将来における不動産市場の動向等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券(リート)などの値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%(税込)

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)：上限年率2.09%(税込)

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)等でご確認ください。

その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用(上限額等を含む)を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料で使用している指数について

●東証REIT指数、東証株価指数(TOPIX)の指数値および東証REIT指数、東証株価指数(TOPIX)にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数、東証株価指数(TOPIX)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証REIT指数、東証株価指数(TOPIX)にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。

●FTSE NAREIT All Equity REITs指数(以下、「本指数」)のすべての権利はFTSE International Limited(以下、「FTSE」)およびNational Association of Real Estate Investments Trusts(以下、「Nareit」)に帰属します。「FTSE®」はLondon Stock Exchange Group plcおよび、そのグループ企業(以下、総称して「LSE Group」)の商標であり、ライセンス契約に基づきFTSEによって使用されています。「NAREIT®」はNareitの商標です。本指数はFTSEによって計算されます。FTSE、LSE Group、Nareitはいずれも、如何なる者に対しても本指数の使用、信頼、または誤謬に起因する如何なる義務も負いません。FTSE、LSE Group、およびNareitは、アセットマネジメントOneによって提示される目的に対する本指数の適合性に関して、いかなる請求、予測、保証、または表明も行いません。

●FTSE EPRA/NAREIT UK指数(以下、本指数)のすべての権利はLSE Group、European Public Real Estate Association(以下、「EPRA」)または、Nareit(以下、あわせて「ライセンサー」といいます。)に帰属します。「FTSE®」および「FTSE Russell®」は、LSE Group会社の商標であり、ライセンス契約に基づいてその他のLSE Group会社で使用します。「NAREIT®」はNareitの商標、「EPRA®」はEPRAの商標であり、すべて、ライセンス契約に基づき、LSE Groupによって使用されます。本指数は、FTSEまたはその関連会社、代理店またはパートナーによって、またはそれらに代わって計算されます。ライセンサーは如何なる者に対しても本指数の使用、信頼、または誤謬に起因する如何なる義務も負いません。ライセンサーは、アセットマネジメントOneによって提示される目的に対する本指数の適合性に関して、いかなる請求、予測、保証、または表明も行いません。

●S&P各国・地域REIT指数およびS&P/ASX200REIT指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P各国・地域REIT指数およびS&P/ASX200REIT指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。